

初夏の葛城山麓へ

第22回「再生塾・日本酒探訪会」は、参加者総勢12名（後藤、樋口、森栗、山本、尾崎、池田、武田、長坂、西窪、橋本、藤井、櫻井、甲木）（名簿順、敬称略。）で、令和8年5月24日（日）に葛城市・橿原市にて開催されました。

日差しの中をてくてくと・・・



葛城山系を眺めながら
足元気分です。

探訪会の一行は、新庄駅から東に向けて延々と歩きます。道は狭いながらも、沿道には古くからの集落があり、いかにも奈良の町並みという雰囲気です。

途中、住吉神社の境内で一休み。

新しい酒文化を創造する梅乃宿酒造

道は段々と登坂になってきます。やっと着いた梅乃宿酒造は、近代的な工場のような佇まいです。

この酒蔵では、「新しい酒文化を創造する」と謳っているように、梅酒をはじめ多彩なラインナップの商品があり、酒蔵も酒造工程を間近に見てもらえるように最初から計画された建築物となっており、これまで見てきた酒蔵とは一線を画していました。



酒造りの工程を順番に巡る回廊があり、酒造りの現場が見えます。案内の設備も凝っています。ライトも「お米」の形をしていますよ。



近鉄御所線 新庄駅前での集合写真(例によって合成)。この日も快晴。初夏とはいえ、半端じゃない暑さ。



梅乃宿酒造での記念写真。ごらんのとおり、近代的な酒蔵「ザ・ファクトリー」でした。

やわらぎ水

梅乃宿酒造では、しっかりと見学科金を頂きながら、見学を前提にした設備の整った酒蔵で、梅乃宿スタッフが酒造りをわかりやすく丁寧に説明し、見学後は梅乃宿酒造のお酒が試飲できるようになっています。これは、新しい酒蔵のあり方、日本酒のPRの仕方だと感心しました。

さて、試飲した部屋の名前は、カタカナでした。つぎのどれだと思いますか。

- A. テイスティングルーム
- B. ワークショッブルーム
- C. ハッピールーム



今井町の「河合酒造」

午後からは、古い町並みが残る“今井町”を散策。今井町は、天文年間(1532～55)に建てられた称念寺が町の起こりと言われ、ここを拠点に一向宗の布教を進め、後には諸国の浪人や商人が集められ町場を形成し、商工業都市として発展しました。

また、経済的に豊かな町民は、茶道などの文化・文芸にも従事し、華道・能楽・和歌・俳諧などが好まれ、各地との交流も盛んになったとのこと。

その今井町にある河合酒造は、昔ながら酒造りを続けている老舗という感じがします。試飲してみますと、お酒は清酒発祥の地「正暦寺」の酒母を用いたようなやや酸味のある味わいでした。

日本酒文化を支える女性力

さて、今回の探訪会で巡ってきた梅乃宿酒造の代表者は女性で、スタッフもほとんどが女性。そのためか、酒蔵（というよりはファクトリー&ショップ）の設えや多様な商品は、女性ならではの感性が活かされているように思えました。

また、長い歴史のある河合酒造も、お店に居られたのは女性の方々と、お店を切り盛りしておられました。男女問わず、それぞれの長所を生かして、日本酒文化を発展させていってほしいと思いますね。当方は呑むだけです…(笑)

勉強会は、天ぷら酒菜 蒼天

さて、まだ、日は高かったのですが、お店「天ぷら酒菜 蒼天」の開店時間に合わせて、お待ちかねの勉強会を開始しました。この日も各種のお酒を呑みながら、森栗先生の書下ろしの新書のお話など様々話題で勉強会は盛り上がりました。



暑い一日が終了。お疲れさまでした。さすがに、この日は、ビールやハイボールから宴会が始まりました。



歴史的な町並みが今に残る今井町。長きに渡り、経済力と文化を保持してきたことは驚嘆に値します。



河合酒造前での記念撮影。試飲後なので、みんないい顔していますね。



試飲したお酒。人数分がずらりと並ぶと壮観ですね。



河合酒造のかまど。奥に酒蔵があります。



次回の日本酒探訪会は“広島”

今回は、酒どころの広島へ遠征です。

7月10日(金)から12日(日)の日程で行います。ご都合に合わせて、途中参加、日帰り参加などもOKです。詳しくは、改めて事務局より連絡いたしますので、ご参加をご検討ください。